

2018 年度

ロシア派遣留学報告書

実習先：ウラジオストク国立経済大学

実習期間：8月28日（火）～12月27日（木）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21017008
五十嵐 亮

目次

1	留学先及び留学期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3,4
4	留学内容	4,5
4 - 1	留学先における一週間の基本的な スケジュール	4,5
4 - 2	留学の詳細	5
5	所感	5,6
6	反省・課題	6,7
	謝辞	7

巻末付録

	BΓΥΘCにおけるイベント	8~
--	---------------	----

1 留学先及び実習期間

研修先：ウラジオストク国立経済大学（B Γ Y Θ C）

研修期間：平成 30 年 8 月 27 日（火）～平成 30 年 12 月 27 日（木）

2 留学先概要

(1)大学について

ウラジオストク国立経済大学（以下「B Γ Y Θ C（ぶぐえす）」という。）は極東ロシアの中心的都市、ウラジオストクに置かれている国立の大学である。町の中心部に比較的近い場所に位置し、大学内にはスポーツジムや病院、コンサートホールなどが併設され、大学周辺地域における中心的な複合施設という側面も持っている。名前の通り経済や経営に対して強い教育を行っているほか、デザインや情報ビジネス、国際教育など非常に多岐にわたる教育を行っているのが特徴的だ。特に B Γ Y Θ C の国際学部にあたる外国語学部は、新潟国際情報大学の国際文化学科と非常に似た性質を持っており、二年次から学生は英語、日本語、中国語、韓国語の中から興味のある言語を選択し学ぶことができる。それら多くの外国語学部の学生が日本人を含む留学生に対して多くの場面で関わってくれる。

(2)大学で行われている教育について

B Γ Y Θ C には「ロシア語を母語としない外国人に対して専門的なロシア語教育を行う学部」が外国語学部の中に開設されており、ロシア語を学びに来る留学生は非常に専門的なロシア語教育を受けることが可能になっている。授業は入学の際に受けるロシア語能力テストによって 10 人前後の学力に応じたクラスで行われ、個人の学力に合わせた教育を受ける。多くの場合は同じ期間 B Γ Y Θ C で教育を受ける学生たちと同じクラスになる。またロシア人学生と留学生、または留学生同士の交流イベントが多く用意されており、国際理解や国際文化を学ぶ機会も数多く用意されている。

3 研修目的

今回の留学の目的は大きく分けて三つある。まず当たり前ではあるがロシア語力の強化だ。ロシアという国で生活するということは、日常的にロシア語を見て、聞いて、感じながら生活することに他ならない。ロシア語を避けては生きていけないであろう環境に身を置くことによって、確実なロシア語の学力の向上につながると考える。また学習内容としてはロシア語の特徴的な「格変化」に対する理解を深めたい。

次の目的はロシアという国、文化、ロシア人に対する理解を深めることだ。ロシアで生活すると、ロシア人たちのふるまいや言葉、マナーや常識など学力とはまた別のことを学べるだろう。それらは時に日本とはまるで違うこともある。長期留学であるからこそゆっくりと

学び、感じ、理解することができる。また普通多くの方は自国で暮らし自国からの目線でしか世の中を見ることができない。そこで長期的に外国に滞在すると世界に対する見方が少なからず変わると考えた。ロシアで暮らしその国の文化や人々に触れるということは、ロシアという国からいかに世界が見えるのか、ということを知るはずである。そして日本という国がどのようにロシアから見られているのか、ということも発見できるはずである。

もう一つの目標としては国際的感覚を身に付け外国語で話すことに慣れる、ということだ。B Γ Y Θ Cには多くの国籍の留学生が在籍しており日常的に彼らと接することになる。そのなかで多くの国籍の留学生たちと交流し、新たな発見や気付きがあるだろう。2020年の東京オリンピックを控えた今、外国人と話すのに慣れ国際的感覚を磨くのは非常に重要なことだ。また外国人と話すということは基本的に日本語以外の言語を話すということになる。もちろんこれは語学の勉強になるほか、外国の言葉で物事を考える練習にもなる。頭の中で日本語から変換して外国語を考えるのと、外国語が直接頭の中に浮かぶのでは天と地ほどの差がある。ロシア語のみならず英語を使う機会もあるだろうし、短い期間中で少しでもその感覚が得られれば上出来である。

4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

研修期間中に行ったB Γ Y Θ Cでの活動やイベントの詳細は付録に記載する。

4 - 1 留学先における一週間の基本的なスケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限 (8:30)	Аудирован ие (リスニング)	Разговорн ый русский язык (会話)	Разговорн ый русский язык (会話)	Лексика и грамматика (文法)	Лексика и грамматика (文法)
2 限 (10:1)	Чтение текстов (長文読解)	Письмо (文章表現)	Чтение текстов (長文読解)	Разговорн ый русский язык (会話)	Аудирован ие (リスニング)
3 限 (11:5)					

4 限 <small>(13:3)</small>	Российский ДВ (極東地理)	Основы ИЗО (美術)		Русские народные инструмент ы (音楽)	Беседы по истории (ロシア史)
---	---	--------------------------------------	--	---	---

4 - 2 留学の詳細

土曜日と日曜日に授業が組まれることは原則的にはない。基本的には上記の日程を毎週繰り返していくことになる。今年度日本人はテストの結果二つのクラスに分けられた。上記の表は日本人が配属されたクラス A,B のうち A のほうである。授業は大学のイベントや教員の私用など B Γ Y Э C 側の都合で休講になる場合があった。その場合補講があるのかはその都度 B Γ Y Э C 側に尋ねる必要がある。今年度は最初の一週間程度は日本人だけの特別な日程で授業を行った。これは同じクラスになった韓国人留学生たちがその時点ではまだ B Γ Y Э C に到着していなかったためであり、スケジュールは B Γ Y Э C 側の都合で毎年度変化する可能性がある。

留学終盤における試験はだいたい 12 月の中旬ごろから授業の時間内で行われ、特別な日程が組まれることもあれば、いつもの授業の時間で行う場合もあった。例えば今年度は文法とリスニングの試験は同時にコンピューターによる試験で行った。他の試験は原則授業の時間内での実施であった。また教師や授業によって試験を課さない場合もあり、成績評価の仕方は場合によってまちまちなように思われ、多くの場合は B Γ Y Э C の教職員個人の裁量にゆだねられているようであった。詳細はその年度の教職員に尋ねるのが賢明である。今年度は試験が差し迫った 11 月の終盤ごろから試験に関する詳細が教職員側から発表されたり、もしくは我々生徒側から教職員達に試験に関して尋ねる場合もあった。試験は毎年度同じような日程で行われると B Γ Y Э C の教員に聞きはしたが、これもまた B Γ Y Э C 側の都合で日程や試験の内容が変化する可能性がある。

5 当初目的・目標への達成度

今回の留学に際しての目的の達成度について、それぞれまとめる。

① ロシア語能力の強化。

かなりの成果があったと感じる。まず耳が完璧にロシア語の音に慣れることができた。そして絶対的な語彙や慣用語の知識が増えた。これらの点はニュースなどで流れる日露関係のニュースやロシア語の映画などにおいて、ロシア人が話すロシア語をある程度理解できるようになったことから実感できた。また自らロシア語で考えロシア語の文を作る能力も身についた。ウラジオストクの街中で見知らぬロシア人と会話をするレベルまで、上達できたことに関してはとても満足している。

② ロシアの文化やロシア人に対する理解

ロシアとは本当に未知の国であり、興味深い国だと感じた。毎日が新発見の連続といっても過言ではないだろう。それほどこの留学生活は驚きと興奮に満ちた日々だった。例えばロシアの食文化について。これは思っていた以上に日本人にとって親しみやすかった（むろん私だけという可能性もあるが）。非常に多くの日本には無いとてもおいしい料理にも出会えた。それらを食べに再びウラジオストクに行きたいといってもいいほどだ。またロシア人のあいさつのマナーなど現地で暮らさなければわからないことを知り、理解することができた。初対面の人と固い握手を交わしたり、あいさつとして異性とハグをしたりするなんて日本にいたら、たとえ頭では理解できたとしてもすべてを受け入れることはできないだろう。またロシア人と日本の話題について話すこともあり、その中でロシア人の日本に対する見方や領土問題についての見解や意見などを聞くことができた。まずまずの成果といえるだろう。

③ 国際的感覚を身に着け、外国語で話すことに慣れる。

正直な話、多くの学生が「国際的感覚を～」云々と留学の報告書やら体験談に書いている気がする。ここで一つ言おう、たかが四ヶ月程度の、しかもロシアという国だけへの留学でそんなものはたいして身についた気はしない。というかそんなものは殆ど身につくはずがない。なぜかという、まずロシアという国で生活していたがゆえにロシアに関しての感覚は身についたとしても、ほかの国に関してはたいして知ることは出来ないということ（努力次第と考える人もいるかもしれないが、四ヶ月は非常に短い）。そして普通は、国際的感覚というものが「いったい何なのか」を意識してから留学に臨まないからだ。国際的感覚とか国際感覚とか、そういう便利な言葉を使う大人や学生たちはたくさんいる。だがその本質を理解していないと、本当の国際的感覚は身につかないということを実感した。たとえロシアという外国で暮らしたとしてもやっぱり日本人は日本人だから、日本人の感覚で物事を見たり考えたりしてしまう。それはいけないことではない。大事なのは自分自身の日本人としての「感覚」に注目して、他の見方や考え方があるということを考えながら世界を見るということだ。それに気が付けただけでも十分な成果だった。ある意味「ロシア的感覚」は身についたかもしれない。もう一つの外国語で話すことに関してはとても慣れた。英語やロシア語を話すときに特に頭の中で日本語を思い浮かべなくとも、簡単な文章なら口からすらすら出てきたときには驚いた。割と話せるものである。

6 反省・課題

たった四ヶ月なのか、それとも四ヶ月も、なのかは人により差があるだろう。しかしこの四ヶ月のロシアでの留学生活は非常に早かった。そう感じるかどうか人もそれぞれだろう。ロシア語の能力は圧倒的に高くなった。ロシアに対する理解も深くなった。国際的感覚云々は置いておいて外国人と外国語で話すことにも慣れた。大体の目標は達成できた。満足であ

る。しかし語学学習というのは生涯学習であるし、ロシアという国をじかに体験した経験は一生、人生の中で生きていくものだ。この学びを無駄にせず継続的にロシア語やロシアという国や文化すべてに対する知識を学び、深めていきたい。また可能であればウラジオストクに限らず、ロシアへの旅行や、すぐには無理であろうが長期的な留学を再び行いたい。

謝辞

この留学においてお世話になったBΓYΘC側の教職員の皆様に感謝いたします。特に日本人留学生に対して手厚くサポートをしてくださったユーリア先生とマリナ先生。それといろいろな場面で関わっていただいた、リザ、アナスタシア、エリヤ、ヤーラ、ラドゥ、アリョーシャ、リューバ、リエナ、ダーシャ、等々ロシア人学生の皆様。ありがとうございました。そして仲良く過ごさせていただいた韓国人留学生の皆さん。特にルームメイトだったチョン・フン。ありがとうございました、皆さんのお陰で楽しい時を過ごせたのだと思います。また本学において事前研修や普段の授業で熱心な指導やサポートをしてくださいました、プラーソル先生と神長先生には深く感謝しております。ありがとうございました。さらには奨学金などの金銭的な援助も留学の大きな助けになりました。このような制度を作ってくださった新潟国際情報大学の関係者の皆さま、ありがとうございました。この留学を支えてくださった皆様には、感謝の気持ちしかございません。繰り返しになりますが本当にありがとうございました。この派遣留学の制度が今後ともさらに継続し、発展していくことを願ってやみません。

巻末付録

●BΓΥΘCにおけるイベント

ここではBΓΥΘC側が企画、もしくはサポートしてくれたイベントについて記載する。日常の個人的な遊びや体験などについては、おおまかに体験談のほうに記載するのでそちらを見てほしい。BΓΥΘC側が用意してくれるイベントは大学や地域主催のイベントなど公式的な物から、学生や先生の趣味に至る非公式なものまでさまざまである。これらのイベントはBΓΥΘC側の都合で毎年度変化する。毎年度同じようなイベントがあるとは限らないので注意してほしい。また申し出をしなければ参加できない場合もあるので、わからないことがあったら必ずBΓΥΘC側へ質問をすることも大事だ。BΓΥΘC側が全てをきちんと伝えてくれるとは限らない。ぜひ、いろいろなイベントへ積極的に参加してほしい。そのすべてが「学び」になるのだから。

① 8月30日 ウラジオストク市内観光
マリナ先生とリザと一緒に街の中心部を見学した。

② 9月2日 ルースキー島、及び市内観光
ルースキー島にある極東連邦大学の敷地内を散策。BΓΥΘCとは比べ物にならないほど大きい大学構内をゆっくりと散策し、お昼はそこにある中華レストランで食事をした。そのあとはリザが市内の新しい場所を案内してくれた。



③ 9月15日 トカレフスキー灯台へピクニック

半島の先にぽつんと灯台がある有名スポット、トカレフスキー灯台へピクニック。マリナ先生とリザ、アナスタシアと彼女らの友達の極東連邦大学のロシア人学生が同伴してくれた。



④ 9月23日 日本語クラスのロシア人学生の皆さんとピクニック

ロシア人学生皆さんからの提案でウラジオストク郊外の絶景スポットへピクニック。現地の人しか知らないであろう絶景スポットに日本人一同、ハイキングの疲れも忘れ感動。

⑤ 9月27日 美術館鑑賞

美術の時間を使い美術館へ。係の人の解説をアナスタシアが翻訳してくれ、絵の制作に隠された背景を理解しながら楽しめた。写真撮影も許されていた。



⑥ 9月30日 虎の日祭りへ参加

ウラジオストクでもっとも大規模で有名なイベント「虎祭り」へ参加した。



⑦ 10月5日 留学生ほぼ全員で郊外へピクニック、及びレクリエーション

授業の時間を使い電車で郊外の大きい公園へ。留学生ほぼ全員が同時に集まっていたためとても大人数だった。レクリエーションが行われ、多くの留学生が国籍を超えてかかわりあった。



⑧ 10月6日 サーカス鑑賞

ウラジオストク市内にあるサーカスを見に行った。



⑨ 10月12,13日 スポーツフェスティバルへの参加

ウラジオストク市内の全ての大学合同で行われるスポーツフェスティバルへ参加。日本人からは水泳で1名、仲の良い同クラスの韓国人からはバスケットボールなどで選手が選ばれそれぞれの応援をした。



- ⑩ 10月14日 日本語クラスのロシア人学生の皆さんとピクニックその弐
ウラジオストク郊外の植物園へ紅葉狩りに出かけた。ロシアでも紅葉狩りは人気のアクティビティなようで、たくさんの人が紅葉狩りに訪れていた。



- ⑪ 10月28日 オペラ「カルメン」鑑賞
市内のマリンスキー劇場沿海州別館でオペラを鑑賞。



- ⑫ 10月31日 サファリパーク観光
アナスタシアからの提案でウラジオストク郊外のサファリパークを観光。



⑬ 11月3日 バレエ「海賊」鑑賞
市内のマリンスキー劇場沿海州別館でバレエを鑑賞。



⑭ 11月9日 ロシア語の詩の朗読会
留学生たちがロシア語の詩を読む朗読会が開催された。今回日本人は朗読会には参加しなかったのだが、日本人学生が一人だけ余興という形でギターの弾き語りによる演奏をした。



⑮ 11月12日 ジャズコンサート鑑賞

マリナ先生の提案で希望した日本人学生二人が、市内の小さなイベントホールで行われたジャズコンサートを鑑賞しに行った。約500円で3時間にわたり一流の演奏を見ることができた。



⑯ 11月15日 国際交流の日、学内コンサート参加

国際交流の日ということで、様々な国の異文化理解や異文化交流のイベントが行われた。そしてそのイベントの一環で学内コンサートが行われ、かねてから音楽の時間で練習していたロシアの曲2曲を日本人全員で披露した。また一人の日本人学生が先週に引き続き、ギターの弾き語りで演奏を行った。



⑰ 11月24日 スケート場でスケート
アナスタシアの提案で日本人学生と韓国人学生でスケートに行った。



⑱ 12月8日 美術館鑑賞、及び学生間交流

希望した日本人学生二人が「クリルの暮らし展」を主に国際部の学生と一緒に鑑賞した。その後希望者は街中で学生間交流を楽しんだ。



⑲ 12月20日 ロシア式のお茶会

韓国人と日本人学生、及び担当教員で、美術の時間を使いロシア式のお茶会を楽しんだ。また学生や先生自身での即興のコンサートも行われ楽しいひと時となった。



㊿ 12月21日 ウラジオストク郊外の公園へ遠足

スキーやスノーボードができる郊外の公園へ韓国人留学生たちと一緒に遠足へ言った。途中からは今年あまり降らなかった雪もかなり降り、一同雪遊びを楽しんだ。なおスキーとスノーボードはしなかった。



㊿ 12月25日 クリスマス会、及び修了式

韓国人留学生たちと一緒にロシアのクリスマスについて学びつつ、クリスマス会が開かれた。その後修了式が行われ各自成績表と記念品が渡された。

